

パソコンを利用した看護関係雑誌の特集記事目録の作成

— E P O B I N D - J を使用して —

高山赤十字病院図書室

木下久美子

はじめに

最近、当図書室では看護職員からの文献検索や資料収集の依頼が増え、なかでも看護関係雑誌の特集記事は最新の情報が分かりやすくまとめていることから利用が多い。そこでパソコンソフトEPOBIND-Jを使って特集記事目録を作成し、利用しているので報告する。またソフト d Base III plus の使用経験を得たので比較を加えた。

1. 使用機種とソフト

使用したパソコンはナショナルの operate 7000. ソフトは同社のパッケージソフトEPOCファミリの中のEPOBIND-Jである。これは16の機能がある(表1)。

2. 対象雑誌

当院で購読している看護関係雑誌26種のうち、特集記事のある10種、1980-1988年の9年間分である。

3. 目録作成手順

- 1) 毎月、前もって作成している入力画面(表2)に特集記事を入れる。各雑誌にはコード番号を付けている。
- 2) 次に独自の分類表(表3)から各特集に1-2ケの分類番号を与える。さらに詳しく分類したい場合は、キーワードを付けている。

- 3) 雑誌別索引の作成: 検索機能で9年間累積したデータを各雑誌毎にまとめ、分類機能で出版年順に並びかえる。(表4)
- 4) 内容別索引の作成: 累積データから分類番号で検索する。(表5)
- 5) 3)、4)を編集し、毎年冊子体の目録を発行する。

* 特集案内への利用: 看護婦を対象に毎月発行している「図書室だより」にも特集案内として利用している。

4. EPOBIND-Jの評価

初心者でも扱えるのが大きな利点である。機能を使いこなせばさらに利用価値は高まると思う。しかし問題点として

- 1) 漢字の入力の際、連文変換ができず、また一般的な熟語の辞書しか装備されていない。
- 2) 機能アップしたい時、ハードまで換える必要がある。
- 3) 入力したデータは同社のパッケージソフト内での使用に限られる。

ことがあげられる。

5. dBASE III plus との比較

最近、パソコンによる特集記事の管理をしている図書室が増えている。dBase IIIを使って特集記事の管理をしている報告もある。

(表1) EPOBIND-Jの機能概要

コマンド	概要	
新規	表を新規に作る。	} 表を作る。
編集	表の形を整える。	
登録	表をバインダ(ディスク)に登録(保存)する。	} 表を修正する。
読込	バインダ(ディスク)から表を読み込む。	
更新	表を更新する。	} 表を加工する。
計算	表データの計算をする。	
分類	データを並べ替える。	
検索	必要なデータを探す。	
合成	表の切りはりをする。	
印刷	表の形で印刷する。	
帳票	自由な形で印刷する。	
表名一覧	ディスクの中の表名を見る。	
削除	いらなくなった表を捨てる。	
画面	表の2カ所又は2表を表示する。	
自動	あらかじめ登録した手順に従って自動的に進める。	
終了	EPOBIND-Jを終える。	

(表2)

今月の看護雑誌特集

A	雑誌名	年	巻号	特集記事	B	C	D
01	看護展望	1988	13				
02	看護研究	1988	21				
03	小児看護	1988	11				
04	看護技術	1988	34				
05	臨床看護	1988	14				
06	クニカルスタディ	1988	9				
07	看護学雑誌	1988	52				
08	保健婦雑誌	1988	44				
09	看護	1988	40				
10	看護教育	1988	29				
11	ナーステーション	1988	18				
12	助産婦雑誌	1988	42				
13	月刊 ナーシング	1988	8				
14	看護実践の科学	1988	13				
15	BRAIN ナーシング	1988	4				
16	OPE ナーシング	1988	3				

A:雑誌コード B,C:分類番号 D:キーワード

(表3) 内容分類表

01:看護論	40:臨床看護一般	69:精神系疾患
02:医療・健康	41:放射線看護	70:母性看護・保健
03:患者・家族(心理)	42:ICU・CCU看護	72:周産期の異常
04:死・ターミナルケア	43:救急看護	74:小児看護
	44:手術室看護	75:小児内科系疾患
06:看護関係団体・学会	48:環境・病棟	76:小児外科系疾患
07:看護史・伝記	(40も参照のこと)	77:新生児・未熟児
08:世界の看護・医療	49:外来看護	
		79:老人看護
09:看護一般・その他	50:がんと看護	80:訪問・在宅看護・
10:看護診断	51:循環器・血系液系疾患	地域看護・
12:看護計画・過程	52:腎疾患・透析	ボランティア
13:看護記録・POS・ 観察・情報	54:消化器系疾患	
	55:内分泌・代謝系疾患	90:看護管理
15:症候・対症看護	56:糖尿病	93:看護研究
20:患者教育・入退院指導	57:呼吸器系疾患	94:看護教育
21:感染・褥創	58:脳神経・筋疾患	96:卒後・継続教育
22:安静・睡眠・体位	59:慢性疾患・免疫・他	
25:栄養・食事の援助		98:看護・医療制度・病院
28:性の問題	60:外科系疾患	99:医療加護・事故・災害
29:リハビリテーション	(がんは50を参照)	
31:臨床検査	61:脳神経外科系疾患	
	62:整形外科系疾患	
33:清潔・排泄・灌腸・他	63:形成外科・皮膚系疾患	
36:輸液・輸血	64:泌尿器系疾患	
38:看護用具・医療機器	65:婦人科系疾患	
39:予薬	66:眼科・耳鼻科・ 口腔外科系疾患	

(表4) <看護展望>の検索例

A	雑誌名	年	巻号	特集記事	B	C	D
01	看護展望	1988	13	1 ケアサービスと料金	98		
01	看護展望	1988	13	2 院内教育ガイドブック	96		
01	看護展望	1988	13	3 看護の場における達成感	09		
01	看護展望	1988	13	4 委託外注の導入と看護	98		
01	看護展望	1988	13	5 老人看護の實習をどうすすめるか	79	94	
01	看護展望	1988	13	6 婦長の配置換え	90		フチョウ
01	看護展望	1988	13	7 混合病棟の管理	48	90	
01	看護展望	1988	13	8 看護教員養成のカリキュラム その内容と運営	94		キョウシ
01	看護展望	1988	13	9 夜間看護管理の再検討	48	90	
01	看護展望	1988	13	10 老人の医療事故をいかに防ぐか	79	99	
01	看護展望	1988	13	11 人間工学からの発想	22		
01	看護展望	1988	13	12 プライマリナーシングを導入して	90		プライマリナ-シ-ン
01	看護展望	1988	13	13 いまアメリカ看護に何が起きているか	01	08	カンゴ
01	看護展望	1987	12	1 あらためて看護基準を考える	98		キシ"ンカンゴ"
01	看護展望	1987	12	2 健康リーダーとしてのナースの戦略	02		
01	看護展望	1987	12	3 教育機材を授業にどう生かすか	94		
01	看護展望	1987	12	4 良い入院環境をいかにつくるか	48		
01	看護展望	1987	12	5 ナースステーションから患者への側らへ	40		
01	看護展望	1987	12	6 訪問看護の条件を探る	80		ホリモンカンゴ"
01	看護展望	1987	12	7 なぜアセスメントができないか	12		
01	看護展望	1987	12	8 実践を重視する臨床實習へ	94		シ"ッジュウ
01	看護展望	1987	12	9 専門看護婦と訪問看護婦の資格化をめぐる	80		ホリモンカンゴ"
01	看護展望	1987	12	10 院内感染予防は万全か	21		
01	看護展望	1987	12	11 いまケアを問う	02		ヒルフクア
01	看護展望	1987	12	12 老人福祉施設における看護婦の役割	79		
01	看護展望	1987	12	13 看護度から必要人員算定へ	90		マンパ"ワ-

A:雑誌コード B,C:分類番号 D:キーワード

(表5) 分類記号による検索例

99: 医療過誤・事故・災害

A	雑誌名	年	巻号	特集記事	B	C	D
01	看護展望	1988	13	10 老人の医療事故をいかに防ぐか	79	99	
01	看護展望	1981	6	6 病院の災害と看護	99		サイカイ
04	看護技術	1981	27	2 医療事故の周辺	99		
07	看護学雑誌	1986	50	12 災害-その時ナースは	99		サイカイ
07	看護学雑誌	1986	50	8 綿創裁判が看護に問いかけたもの	99	21	
07	看護学雑誌	1988	52	7 医療過誤・看護事故から学ぶ	99		
09	看護	1981	33	3 われわれにとっての富士見産婦人科病院事件	99		

A:雑誌コード B,C:分類番号 D:キーワード

しかしプログラムの知識が必要で、初心者が利用できるまでには少なくとも1カ月間要すると聞いている。しかし、簡単なプログラムを組んでもらって使用してみたところ、単純な操作で利用できることがわかった。

機能面でもEPOBIND-Jより融通性があり、ワープロ用ソフト「一太郎」の辞書と医学用語の辞書を組み合わせることにより強力な辞書を使用でき、特集記事の入力は簡単であった。

EPOBIND-Jは、素人がすぐに使用できるという点で非常に役に立った。しかし、特集記事管理のプログラムが作成、或は入手できるならば、dBaseⅢの方が使いやすく、他への応用範囲も広いようである。

パソコンに馴染みの無い図書室の担当者にとって、数多い機種やソフトの中でどれを選ぶかは難しい。またプログラムを独学するのも大変なことである。一方、あちこちの病院図書でパソコンを使って似たようなデータを入力するのは無駄があるように思う。パソコン通信の発達している現在では、図書室間でのプログラムやデータの交換・共同利用が可能とも思われ今後検討課題に思う。

結 び

当院でのパソコンを利用した看護関係雑誌の特集記事目録の作成についてその現状を報告をした。今後さらに、利用者のニーズに合うよう、改良を加えてゆきたい。

参考文献

- 1) 野原千鶴：dBASEⅢによる図書室業務管理システム、医学図書館、34(3)：244-246、1987
- 2) 堀江幸司・他：日本語dBASEⅢ plusによる「雑誌特集記事システム」の開発 一機能の概要一、医学図書館、35(3)：153-166、1988
- 3) 齊藤寿子：パソコンによる和雑誌特集記事索引作成の試み、第14回医学図書館員セミナー論文集、101-108、1987